

# 笛吹市探訪

## 武田氏と笛吹市⑧ — 能成寺跡と清道院（八代町） —

甲府市の東光寺町に能成寺（のうじょうじ）というお寺があります。この寺は仏教の中でも特に臨済宗を深く信仰した武田信玄が、京都や鎌倉の五山制度に倣（なら）って、武田家と縁の深い五箇寺を

選んで定めた甲府五山の一つです。能成寺は、業海本浄禅師（ごうかいほんじょうぜんじ）という僧侶によって貞和年間（1345）1349年に笛吹市の八代町北地内に創建された寺で、享徳4（1455）年に亡くなつた武田氏第十五代当主の武田信守の菩提寺となりました。その後、長らく当地で大切に守られていましたが、武田信玄が甲府五山を定めるにあたり、甲府市の宝に移されました。そして、さらに文禄年間（1592）1595年の甲府城築城の際に現在の場所に移されました。



能成寺跡から発見された五輪塔や宝篋印塔

現在、能成寺が創建された所はブドウや桃などの果樹畑になっており、往時の姿を偲ぶことはできません。しかし、昭和13（1938）年に寺跡の竹林中



龍沙山清道院入口

から発見された多くの五輪塔や宝篋印塔（ほうきょういんとう）のうち、代表的なものが昭和38（1963）年に建てられた保存庫の中に保管されており、寺の歴史を静かに物語っています。

ところで、能成寺跡より北西約250の所には、これまでも「武田氏と笛吹市」のシリーズの中で紹介された清道院（せいどういん）が所在しています。清道院の境内に入ると右側に寺記を記した石碑が建てられているのが目に留まります。この石碑によると、ここは武田氏第十一代当主の武田信成の居城でしたが、信成が信州へ出陣していた応永5（1398）年3月18日に攻められて落城してしま



信成夫人が身投げした井戸



武田信成夫人の墓

いました。その際、信成の夫人が城内にある井戸に身を投げて自害したので、応永18（1411）年に信成の子である武田信春が、母の菩提を弔うため城を寺に改めたということなのです。この信成夫人が身投げをしたという井戸は現在も境内に残されており、何処となく物悲しい雰囲気漂わせています。